

☆遊佐町立吹浦小学校の実践 — 「つながるいのち」 —

※ 吹浦小学校では、10月を「いのちの月間」として位置づけ、食育や保健指導、道徳、学級活動等と関連させながらいのちの教育を推進しています。「自分のいのちみんなのいのち」「いのちを輝かせる」「いのちをいただく」をキーワードに様々なアプローチで生命の大切さやつながりについての学びを深めています。

家族の思いにふれて

(児童の感想より)

赤ちゃんふれあい体験授業

- ・生まれたことをうれしく思ってくれてありがとう。私の手をにぎると幸せに感じてくれてうれしいよ！
- ・とてもつらかったと思うけど、産んでくれて、たくさんの愛情を注いでくれてありがとう。



赤ちゃんのぬくもりにふれて

- ・抱っこの方が難しかったけどすごくかわいくて手はなせませんでした。

- ・陣つうという痛い思いをして産んでくれたことがわかりました。妊婦さんを見つけたら手伝ってあげたいです。

いのちを見つめる

私たちは生まれるまでの間、たくさんの愛情を受けてきました。そして生まれたとき、周りのたくさんの人を笑顔にしました。

～後藤敬子さんの言葉より～

(生徒の感想より)

- ・新しい命が生まれるには、様々な苦労があることが分かった。女子や女性のつらさはわからないけど、後藤先生が言ったようにどんな人にもなるべく優しくしてあげたい。

- ・赤ちゃんはおなかの中で笑う練習をしていることを知り、おなかの中でも、毎日赤ちゃんはがんばっているんだなと思った。僕も将来お父さんになってしっかりと赤ちゃんを守ってあげたい。



☆遊佐町立遊佐中学校の実践 — 守られる立場から守る立場へ —

※ 遊佐中学校では、1・3年生で思春期講話として、酒田市母子保健コーディネーター後藤敬子先生をお招きして命の学習を展開しています。1年生は「生命誕生、命の大切さ」、3年生は「異性への理解と尊重」をテーマにして発達段階に合わせてお話しいただきました。

思春期講話～1・3年生～

- ・「命とはどういうものか」まだ説明することはできないけど、今、自分がここにいるのはお父さんとお母さんのおかげ。恥ずかしいけどいつか「ありがとう」の言葉を言いたい。

- ・一つ一つのいのちの大切さが、僕の中でより大きくなった気がした。やはり人間は一人ひとり協力し合い、補い続けて強くなり、生きていけるようになると改めて感じた。

今、ここにいることの奇跡

